

優良賞

乙部町立乙部中学校 3学年 笹木 あいく
ずっとそばにいてくれた



「モカ。本当にありがとう。」

今から19年前、叔父の家に新しい家族がやって来ることになりました。まだ私が生まれる前のことです。

名前は「モカ。」オス。犬種は少し大きめのポメラニアン。モカは、とっても甘えん坊で、活発で、少し怒りんぼうな性格でした。とにかく私はモカのことが大好きでした。

今から3年前、叔父が遠いところで仕事をするようになったので、モカを我が家で預かることになりました。

私は嬉しくて、散歩に行ったり、外と一緒に走ったり、いつも私の後ろをついてきます。思い返すと本当に楽しい毎日でした。

12月2日。いつも通り私は学校から帰宅しました。玄関を開けモカに、「ただいま！」と声をかけると、モカは悲しい顔で私を見ていました。近寄ってくる気配もなく不思議に思いました。「どうしたの？」心配になってモカに駆け寄り、撫でてあげました。モカはもう立てなくなっていたのです。私は驚きで声が出せませんでした。私の声に応えて、何とか立とうと頑張っている姿を見て、私は「無理しないで」と声をかけました。

人間でいえばもう90歳以上のおじいちゃんだから、少しでも長生きしてほしいと思いました。

きっと立てなくなった原因は2年前にできたがんのせいだと私は思いました。たとえがんでも、病院へ行き、手術で治ると思っていました。しかし、医師に、「もう高齢で体力が持たないから、手術はできない。」と、言われました。元気そうに見えていても、徐々に体力は奪われていたのです。

歩けなくなったモカは、食欲もなく、水分をとる回数もだんだん減っていきました。一緒にいて、次第に体力も落ち、弱っていつているのがわかりました。私は、きっと天国に行く日が近づいているのだと思いました。

仕事先から戻っていた、元の飼い主である叔父の家にモカを返すことになりました。そして、モカが叔父の家に帰った2日後。去年の12月8日。モカは天国へ旅立ちました。

知らせを聞いた私は、急いで叔父の家に駆け付けました。横たわったモカを見ると口元に血が付いていました。かわいそうで、かわいそうで、涙が出ました。触るとぬくもりが少し残っていました。ずっと暮らしてきた叔父の家で最期を迎えることができよかったなと思いました。

モカはいつでも私のそばにいてくれました。辛い時、慰めてくれました。モカがいたから頑張れたこともたくさんあります。

私は、最後に苦しい思いをさせたしまったモカにすごく申し訳ない気持ちがあります。もっと早く病院に連れて行っていたらがんは治っていたかもしれない。苦しい思いはさせなかったかもしれない。

がんを患いながらも、19年生きたモカはやっぱりすごいと思います。

いなくなった今も、モカの匂いはまだ残っていてまだ私のそばにいると感じることがあります。目には見えないけれど、触ることはできないけれど、そう感じることもあるのです。もっと一緒にいたかった。

私は、そんな思いから将来、獣医師になりたいという夢を持っています。たくさんの動物と繋がることで、少しでも幸せな一生を送れる動物たちを増やしたいと考えたからです。

年々減少しているものの、まだ飼い主に愛されず、殺処分される犬たちがたくさんいるこの世界で、犬たちを守ろうと頑張っている人たちがいます。

しかし、病気を患い、短い一生を送る動物たちもたくさんいます。そんな動物たちを一匹でも多く助けられる獣医師になりたいです。「モカ？モカも幸せだった？私はモカのような病気を治せる獣医師になれる様に頑張るからね。」モカだけじゃなく、世界中の犬が幸せだったと思ってくれるようになることを、私は心から願っています。